



元日 修正会

青葉の笛だより

第45号

令和6年 正月号

発行所：大本山 須磨寺

〒654-0071

神戸市須磨区須磨寺町4-6-8

TEL 078-731-0416(代)

<http://www.sumadera.or.jp/>

ご挨拶

令和六年は辰年です。須磨寺の長となつてから三度目の辰年になります。

振り返ってみると、最初に迎えた平成十二年は西暦でも二〇〇〇年になり、ミレニアムという言葉が飛び交いました。一月、大阪の国立文楽劇場での新春公演では、初春の縁起物として蛸み鯛とその年の千支の字が書かれた凧が舞台上部に飾られますが、新春公演の演目「一谷嫩軍記」に縁ある地の者として、私の書いた「辰」の字が凧になり、二匹の鯛に挟まれる形で、約一か月の公演期間中舞台上部に掲げられました。これは今も忘れない良い思い出となっています。そして三月、ロシアではプーチン大統領が当選し、七月には日本で金融庁が発足。沖縄でサミットが開催され、今は見ることもなく自動販売機等では使えない二千円札も発行されました。九月にはシドニー五輪で、高橋尚子選手が女子マラソンで日本人初の金メダルを獲得し、十月には白川英樹博士がノーベル化学賞を受賞されました。しかし、年末には今も未解決の世田谷一家殺人事件が起きました。

次の辰年は平成二十四年(二〇一二年)で、

任しています。そして十二月には、平成二十一年(二〇〇九年)に政権を取った民主党が選挙で大敗し、また自公政権に変わりました。

辰年は原則的に閏年でありオリンピックが開催され、結構記憶に残る出来事が起きる年のようにです。辰年の「龍」は十二支の中で唯一の架空の動物ですが、仏教の守護神でもあります。変幻自在で驚異的な能力を持ちますが、強いだけでなく品格も備えています「如意宝珠」という、何でも叶えてくれる宝の珠を持っています。海の彼方の竜宮に住み水を支配し、雨を降らせる能力を持っているので、旱魃は死活問題となる農耕社会の日本にとっては、大事な大事な神様として信仰を集めました。お大師様が勅命による請雨の御祈祷を神泉苑で修められ、善女龍王様を呼んで雨を降らせたのは、皆さんもよくご存知のことと思います。

龍は天空と地上を結び、海から舞い上がり禍を除き福を招きます。今年は龍のように上を目指して精進する年にしたいですね。

大本山須磨寺 貫主

小池 弘三

合掌

貞照寺と鯖大師



貞照寺は大正八年に中島貞照という尼僧が、一ノ谷（神戸市バスの一ノ谷駐車場、一ノ谷プラザを西へ少し進み、山陽電車のガードをくぐって坂道を少し上がったところ）の地に、鯖大師を勧請して、「鯖瀬教会」を建立したのが始まりです。その後の昭和二十七年に真言宗大覚寺派の貞照寺となりました。その後も一ノ谷で活動していましたが、平成七年の震災により本堂が全壊。この地での再建は無理なため、震災前より貞照寺は須磨寺蓮生院住職が兼務していた縁で、御本尊様は蓮生院書院に、鈴木商店番頭の金子直吉が奉納した十六羅漢像を書院前に遷座しました。その蓮生院書院も耐震性の問題により平成末より新築し、同時に須磨寺派に変わり今に至っています。

さて、それでは貞照寺御本尊の鯖大師とはどのような話なのかというと、阿波（徳島県）を中心に流布している高僧伝説です。「須磨の伝説」という本にもありますが、その話によると、馬に塩鯖を載せた男が一ノ谷の海辺で旅の僧侶と出会い、その僧侶から塩鯖一匹所望されたが冷たく断り、無視して歩き続けようとしたら、馬が突然苦しみだした。驚いた男は慌てて僧侶に鯖を一匹差し出し、馬を助けてほしいと頼んだところ僧侶は快く引き受け、持っていた水を馬に呑ませてもらいお祈りを始めると、馬は忽ち元気になった。そして僧侶がお礼に貰った塩鯖をお祈りして海に放つと、不思議なことに塩鯖が元気に泳ぎだし、遠くへ去っていった。これを見た男は驚き、名前を尋ねると「弘法大師」だった。改心した男は庵を結び弘法大師をお祀りしたという話です。

貞照寺の前には「鯖大師由来図」が、その向かいには鯖大師の石像がお祀りされ、周辺には十六羅漢像や納骨堂もありますので、須磨寺にお越しの際は、是非ご参拝ください。

除夜の鐘と 千巻心経法要のお知らせ

令和五年十二月三十一日、午後十一時四十五分より例年通り、参拝者の皆様に除夜の鐘を撞いていただきます。先着百八名の方々には、記念品の特別絵馬を授与します。百八番目までの整理券は、午後九時半に鐘撞き堂前にて配布します。

百九番目以降の方も、午前二時までは自由に鐘を撞いていただくことができます。

大晦日の夜当山境内にて、清らかな鐘の音と共に旧年中の煩惱を払い、清々しい気持ちで新しい年をお迎えください。

また、同時刻より護摩堂におきまして、千巻心経法要を執り行います。



当山管長導師のもと、旧年の厄を払い、新たな気持ちで新年を迎えられるよう、太鼓の音に合わせて般若心経を唱えます。

新しい年を迎えるに当たって、旧年にも増して皆で助け合い、仏様の智慧をいただき、明るい気持ちで過ごしていけるよう共にご祈念したいと思えます。

修正会のお知らせ

令和六年一月一日午後二時より、当山本堂におきまして、新春開運修正会（大般若転読法要）を執り行います。

導師が経題を唱えた後に、職衆各々が経本を展開する「転読」という特殊な読みかたで、総数六百巻に及ぶ長大なお経「大般若経」を読誦します。その功力をもって皆様の家内安全、厄除開運から、国家安穩、世界平和に至るまで、一年間の無事を祈念します。

祈願札を申し込まれた方には当日本堂にお入りいただき、導師の加持した経本で身体を加持いたします。

新しい一年のご多幸を、皆様と共に祈念したいと思います。



授与品

五千元 祈願札（木札）・破魔矢・

腕輪念珠

三千元 祈願札（紙札）・腕輪念珠

申込期限

一月一日正午まで

須磨寺寺務所にて承ります。

須磨寺本坊 正月三が日 特別護摩祈祷のお知らせ

例年正月三が日は、護摩堂にて特別護摩祈祷を厳修しております。

令和六年度は、三が日の間の護摩祈祷札のお申し込みをいただいた方限定で、祈祷札と合わせて当年の干支、辰年の守り本尊（普賢菩薩）の梵字入り散華を授与いたします。

ご希望の方は、「正月三が日特別護摩祈祷申し込み用紙」にてお申込みください。

受付での直接のお申し込みは、令和6年1月3日（水）午後2時の座までお受け出来ます。



また、コロナウイルス感染の恐れのある状況下での初詣に対して、不安をお持ちの方もおいでのことと推察いたします。そこで、郵送でのお申し込みにも対応させていただきますので、「新春特別護摩祈祷郵送申し込み用紙」をご確認のうえ、お申し込み下さい。

尚、郵送でのお申し込みは令和5年12月31日（日）必着にて締め切りとさせていただきますので、ご了承ください。

ご不明な点は、本坊寺務所までお問い合わせ下さい。

「正月三が日特別護摩祈祷受付係」

電話 〇七八ー七三二ー〇四一六（代）

蓮生院 一月から四月までの行事予定

写経・瞑想体験会

お寺で写経と瞑想の体験会を致します。気軽にできる写経・瞑想ですので、初めての方もご参加いただけます。疲れた心を癒しにお越しください。

(写経のみ、瞑想のみの参加も可能です。足を組みやすい服装でお越しください)

日時..

一月二十七日(土)

二月十七日(土)・二十五日(日)

三月三十日(土)

四月十四日(日)

写経会 十四時～十五時半

瞑想会 十六時～十七時半

(受付は三十分前から)

場所..蓮生院本堂

参加費..写経五百円・瞑想会千円

護摩行

毎月、二十一日十四時から厄除け大師堂で、二十八日十四時から蓮生院本堂で護摩を致します。お参りは自由なので、護摩行中はご自由にお入りください。

写経・瞑想体験会は事前申し込み制です。

発熱、咳、下痢、頭痛、息苦しさなどありましたら、参加はご遠慮ください。
マスク着用をお願いします。

当日お昼までに蓮生院の寺務所にお申込みいただくかお電話でお申し込みください。

諸事情により取りやめになることがあります。

蓮生院電話番号 〇七八―七三一―二三一一

須磨寺の歴史〈三十二〉

― 須磨琴と須磨寺

須磨琴は板琴、独弦琴、一絃琴とも呼ばれ、一枚の板に一本の弦だけが張られたシンブルな琴です。

その起源は平安時代までさかのぼり、平安時代初めに都を追われて須磨に流された中納言在原平卿が、寂しさを紛らわすために、須磨の渚に打ち寄せられた板切れを拾い、冠の緒を張り、岸辺の芦の茎を指にはめて爪にして掻き鳴らしたことが始まりと伝えられています。この琴は須磨の名物であったようですが、いつしか廃れてしまいました。また現れるのは江戸時代の享和二年(一八〇二)に須磨琴中興の祖と呼ばれる覚峰律師が須磨寺に須磨琴を奉納する頃からで、幕末から明治にかけては現在の伝承曲の大半を詩作、作曲した広田神社の神官であった真鍋豊平翁の活躍もあり文人墨客の間に愛好されていきました。しかし、西洋音楽の流行等におされて衰微してしまいます。その状況を憂いた須磨寺前管長の小池義人和尚の尽力により昭和四十年に須磨琴保存会が発足し、兵庫県無形文化財にも指定され、須磨寺では須磨琴の保存継承に力を入れるようになります。

須磨寺の霊宝館には須磨琴中興の祖、覚峰律師が奉納した須磨琴があり、また同じく宝物の須磨参詣曼荼羅には向かって右下に、在原平卿が松を見上げている姿が描かれているので、須磨寺に参詣される折には、是非ともご覧ください。





須磨こども 長唄 @ 櫻壽院

小さな子ども達が繋いでいく伝統芸能
地域の方々に見守られ活動中です!

こんにちは! 須磨こども長唄です。
私たちは、須磨寺櫻壽院の長唄三味線教室を母体として、小学1年生〜高校3年生を対象に、長唄を通して、唄うことの楽しさ、邦楽を奏でるおもしろさ、自分たちの国に伝わってきた文化に興味を持ってもらえたらと活動しています。今年、一生懸命、子ども達が活躍したことを皆様にご報告させていただきます。

コロナ禍でも前向きに活動した
成果が今年、実りとなって
子ども達の大きな成長に
つながりました

今年で8年目を迎える私たちですが、コロナ禍で、発表はもちろん、お稽古も、子どもたちが自由に大きな声で歌うことさえ憚られる状況に…。しかし、子どもの成長は止まることはなく、もどかしい状況をどうにかしたい!との思いから、ご指導の東音松浦麻矢先生にご相談し、メンバーのお母さま方と、昨年、『須磨こども長唄』と名前を新たに活動を再開させました。なかなか習う、聞く機会も少なく難しい長唄ですが、子ども達は、楽しそうに伸びやかに唄い、先生の指導にしっかりとついていき、回を重ねることに上達していきましました。また櫻壽院の本堂をお稽古場として、地域の方々やお参りの方々にも見て頂いたり、着物を寄附して頂いたり地域の方々とのつながりも深くなったのがあります。

子ども達と先生との絆
お母さん達のチームワークも
最高で本番に挑みました!

今年、須磨寺の春の大祭を皮切りに、大阪国立文楽劇場、須磨区文化センターなど大きな舞台に堂々と立つことができました。子ども達は、1回1回のお稽古をこなす中で、先生との信頼を感じずにはいられないほどの上達ぶり。そんな子ども達の姿に、お母さん達の不慣れな着付けも上達しました。また『花見踊』『供奴』と演奏する曲に合わせ、お母さん達もつまみ細工で簪を作り上げたことも子ども達の頑張りに親が心を動かされた表れだと思います。



みなさんも
楽しく唄ってみませんか?

須磨こども長唄では、いつでもお稽古を見学&体験ができます。ご興味ある方は、ぜひご連絡ください!

令和六年 おさらいお稽古日程

1月14日 小鍛冶
2月18日 花見踊
3月24日 供奴

場所: 須磨寺・櫻壽院
時間: 16:00 ~

4月以降は随時Instagramにアップするので、ご確認ください▶



☆詳しいことは 須磨こども長唄
078-731-0918 井上まで

日頃、子ども達の育成に貢献できたらと思っておりましたら、須磨こども長唄のお話を頂き、お稽古で櫻壽院に元気な子供達の声が響くのは、お寺が明るくなり、とてもありがたいことだと思っております。

発表会の成功は、手弁当て指導してくださった松浦先生のご尽力。また、子ども達を支える御両親や祖父母そして、お着物など多くの物を寄附し声援をくださる地域やお参りの方々、多くのご縁を頂き、それにこたえ子ども達が一生懸命頑張った成果だと思います。これからも子ども達を見守り、楽しく長唄を通し日本の伝統に触れ、心豊かに成長していけるよう、皆様と共に応援していこうと思います。どうぞよろしく願いいたします。

櫻壽院 住職
井上真英

華やかな伝統芸能である長唄を神戸の子ども達に伝え残すのが私の夢です。この度、沢山の子ども達に長唄を体験していただける機会をいただき心から感謝しています。

小さな子ども達でも、曲の解説や時代背景など分かりやすく解説し『お客様に聞こえない唄ではない!大きな声で唄うこと』と一生懸命に取り組むよう指導しています。大人でも難しい言葉や節ですが、子ども達は柔軟に身体で習得し、回を重ねることに上達し、感受性の豊かさに驚きました。また、長唄は大勢で演奏しますが、指揮者はいません。演奏者全員がタテという中心になる人に気持ちを揃えて演奏します。

本番では様々な年代の子ども達が皆で唄うことにより、小さいながら相手の気持ちを汲み唄う姿に思いやりの心が垣間見え本当に感動しました。

これからも、ご挨拶や礼儀作法など『きっちりとした芸』を教え、長唄から日本人ならではの心も習得して欲しいと願って指導してゆきたいと思っています。

須磨こども長唄指導
東音松浦麻矢

お寺で学ぶ 周活知恵袋

真言宗須磨寺派昭和寺 住職 中山 戒仁

◆はじめに

いつも思うのですが、「終活」という言葉は「死に支度」「旅立ち支度」と言う暗いイメージが強いので私は好きではありません。私に対して「終活しよう」と周囲から言われたとしたら嬉しくありませんし気分の良いものでもないと思います。おそらく多くの人が同じように感じるのではないのでしょうか。しかし、周活相談や住職としての色々な方と関わらせていただく中で準備と心積もりの大切さを痛感しております。そこで私の考える「終活」だけではない『周活®』について「弔い」の視点からお話させていただきたいと思っています。

◆『周活®』は「想統」

さて、ここでいう『周活®』とは何かと申しますと、自分自身の人生の大切な行事や生きてきた証、想いを「収集」「整理」「継承」していくことをいいます。旅立つための準備でもあり、遺された大切なパートナー・家族・ご縁のある方々との旅立ちのセレモニーと、旅立ち後のコミュニケーションの創造でもあります。私たちは、生きていく中で、とても多くの方とご縁をいただき、色々な経験、功績、智慧、想い出等を積み重ねて参ります。その貴重な財産をその人の一代だけで終わらせるのではなく、後世に遺し引き継いでいくことはとても有益であり必要なことだと私は思います。皆さん自身が人生を懸けて積み上げてきたプライスレスでオンリーワンな想いや財産を適切に伝え遺していく準備等の活動が「周活®」であり、「想統」と私はお伝えさせていただいています。

◆『周活®』のヒントは「弔い」にあり

私はよく皆さんに次のような質問をさせていただいています。

『周活®』の
意義と始め方

「皆さんにとって記憶に残っている印象的なお葬儀ってありますか？」

「行つてよかったと思うお葬儀や法事がありますか？」

そうすると、「あまりない」「みんな同じようなものやから」というお返事が返ってきます。

表現が適切ではないかも知れませんが、判で押したような同じ葬儀で記憶に残らないのも仕方ないのかも知れません。加えて、お葬儀に関してご本人（故人）やご遺族の関わり（関与）が少ないことも大きな要因になっており、その結果、充実感や費用面等に納得が得られないものになっているように思います。

ただ単に今日の葬儀等の執り行い方を問題視しているわけではありません。見送られる方にとって今生で最後の晴れの舞台であり、

見送る人にとっても大きな節目の饗・儀式でもあります。もつと見送られる方（故人）の個性を活かしたセレモニー（告別式）、ご遺族の想いのこもった温かいセレモニー（葬儀）に変えていくべきだと思います。ちよつと考えてみてください。結婚式の準備には半年から1年をかけて多くのことを決めておられると思います。しかし、お葬儀はどうでしょうか。臨終を告げられてから間髪入れずに数時間で決めなければならないのが実情です。ご本人の想いは聞けず、ご遺族の心身の状況を考えても冷静に考えて判断することは難しいと思います。結果的に後悔や心残り、納得のいかないことが多くてもやむを得ない状況であることは明らかです。決して楽しく明るい話題ではありませんが、元気なときに自分自身で人生最後の大舞台をプロデュースして多くの人の心に残る、「お参りしてよかった」と言ってもらえる旅立ちのセレモニーを考えるきっかけにいただければと思います。

◆「あなた」を待っているひとがいる

もう一つ忘れてはいけないのが旅立った後の安住の地、すなわちご遺骨の行方です。ご遺骨をお納めした場所が旅立った後に遺された人にとっての「故郷」「出合いに行ける場所」となり、大切な心の拠り所になります。墓所、納骨堂、供養等など奉安していただける場所、または山河や海、宇宙などへの散骨という方法もあるでしょう。すべての場所が、というわけにはいかなくても知れませんが、誰かに気を遣うこともなく、行きたいときに会いに行ける場所がご遺骨のあるところです。そういうと「お佛壇をお参りすればいいのでは」と言われる方も多いのですが、色々な事情でお参りが叶わない方も少なくありません。だからこそ、旅立ち後の安住の地を決めて「私たちは此処に居るから、何かあったら来てね。」と大切な方に伝えていただきたいと常々思っています。

よく「私が死んだら骨はその辺に撒いて」とか、「遺骨は適当にして」と等と言われる方を散見しますが、パートナー、家族、知人友人等の旅立つあなたを大切に想っている人は必ずおられます。今生での生が尽きたからといって縁が切れるわけでも無になるわけでもありません。物質的なつながりや言語を通じたつながりを超越した心と心でつながり続けられると私は思います。旅立つあなたから縁や路を断つてしまわずに、あなたに会えるつながれる場所、あなたを待っているひとのために遺して逝くという生き方もいいと思いませんか。

◆おわりに

先のコロナ禍で失うものも多かったように思います。しかし、得るものや忘れていたことに気付かされたことも沢山あったと思います。老若男女も国籍も問わずに「生死」を直視した日々だったと思います。だからこそ、「弔い」の大切さや尊さを今一度考えるきっかけにいただければと思います。

仙師逍遙

ゆつたりと漂う木の春の中に座して、庭の白い萩の花群れに音もなく降る時雨を眺めていたとき、なぜかふわりと二十年前の記憶が頭を過りました。

その遠い日の夕方、小雨の中を近在のお弁当屋さんに車を走らせていました。須磨寺の背後の山裾を縫う道路は、帰宅時間となると西行き車線は連日渋滞しますが、須磨離宮公園から二つ目のトンネル迄の間は、日ごろ徒歩の方を見かけることはありません。

ところがその日は、二つ目のトンネルの手前の対向車線側を、大きな荷物を背負ってひとり歩くお年寄りの姿が目にとまりました。

「一体どこへ」と気になりましたが、前後を車に挟まれていて停車できず、ドアミラーの中に遠ざかるお姿をそのままに、二つ目の長いトンネルを越えて、当時そこにあったお弁当屋さんに車を止め、須磨御膳という名前の幕の内弁当を注文し、出来上がりまで待つ車に乗るまで凡そ十五分。渋滞の続く西向き車線とは対照的に、すいすい走れる帰り道の途中で、なんと、先ほど目にした方がまだその道を歩き続けておられました。

少し強くなった雨の中、流石に迷わず車を止め、

「どこまでいくんですか」

と声をかけると、その声に「瞬驚いたように」

「板宿まで」

と、小さな答えがありました。それはとても歩いて行ける距離ではありません。まして小降りとは言え雨の中のこと。

「とにかく車に」

と、助手席のドアを開けました。

肩から下ろした荷物を膝に抱いて、乗ってこられたご高齢の女性に、ダッシュボードに積ん

でいた須磨寺のお名前の入ったタオルを袋から出してお貸しして、

「板宿の駅ですか」

と改めてお聞きすると、濡れた頭や顔をタオルで押さえながら笑顔でうなずかれて、

「おにいさん、いい人だね、タバコ吸うか」

と、そう言われて差し出された煙草を、有り難くお断りして運転しながら、ポツポツ話される事情をお聞きすると、須磨寺の近所に

いる次男さんのご家族と同居されていて、今日は長男さんの家に行かれるとか、迎えが遅いから先に出てきたのだとか話される中で、ご自身が在日一世だと口にされました。

これはどうも世に言う嫁姑問題に巻き込まれたかな、となんとなく思った頃にはもう板宿駅に着いて、そうお伝えすると、

「電車代を持ってない」

と言われたので、車の小銭入れから硬貨を何枚か掴んで手渡しと今度は、

「電車の乗り方がわからない」

と言われる。

「いったい家はどこにあるの？」

と言う問いには

「三宮の市役所の近くで行けばわかる」

と言うご返事。ちらっと頭に交番が浮かび、

また、残してきた仕事に気がなりながらも、三宮までならとアクセスを踏みしました。

その道中、日本での姓は新井さんで若い頃日本に来て苦労したこと、特に戦争中は辛かったこと、戦後も家族に食べさせる為に毎日毎日道路工事に雇われて、素手で地面に石を敷き詰めたこと、簡単に相槌を打つことさえ憚られるようなお話の後、子供さん達がとても頑張つて立派になってくれて今は楽をさせてもらっていること、などなど。

お話の中でお聞きした八十三歳の年齢は、偶然にも大阪にいる私の母と同じでした。ところが、三宮の市役所に着いた時、

「ここには一年前まで住んでいた」

と突然話が変わりました。

「いまは阪神大石駅のすぐそばの家にいる」

と聞いて、これはもう限界かと思つて、

「近くの交番で聞いた方が早いかも」

と口にすると、

「警察はこわいからやめて」

かたい口調で、ほんとうに怖そうな目で私を見られました。

「大石は間違いないから、おにいさんお願いやから」

何度かそう乞われて、私も話を何度も確認して、結局、国道二号線を更に東上し、土地勘がない所まで途中で迷い、ガソリンスタンドに寄つて尋ね、阪神大石駅を目指しました。

相変わらず雨の降り続く中、意外と大きい阪神大石駅の真ん前に着いて、

「さあ、どの辺りですか」

と、こちらが聞く前に

「この駅は大石駅と違う」

と、ご当人が驚いたようにつぶやかれました。

「こんな駅じゃなかった、わからん」

の言葉を聞いて、見れば確かに駅が新しく、見るからに改装されたばかりと言う感じ。まだ携帯のなかった頃、公衆電話を走つて探して、番号案内で阪神大石駅のすぐ近くに有るはずの「新井さん」と言う家を探しても

ありませんでした。

「軒あります」の嬉しい声と、覚えた番号を拝むような気持ちでブツシユ。

送信のベルが鳴るとすぐに応答があつて、口

早に顛末をお話するその途中で、

「母です。探してたんです。いまだどこですか」

と、大喜びの声が耳に飛び込んできました。

もちろん私も大喜びで居所を告げると、待つ間も無く走つてこられて、何度も頭を下げられながら、両方のご家族、知人友人全員で、もちろん警察にも頼んで捜索中だったと話さ

れました。

「早く休ませてあげてください」

と、私もホツとして早々に車に乗りこみ、何

度も住まいや名前を聞かれたけれど、「良かった良かった」を繰り返して名前を告げず、冷たくなった幕内弁当と一緒に、車を西に走らせました。

翌日は、須磨寺仏像彫刻会の教室。

「先生、お客さんです」

と言う声に出て見ると、昨日阪神大石駅で出会った方が玄関に立たれていました。

「ご丁寧なお礼のご挨拶にかえつてこちらも恐縮して、名前を告げていないのに「よく分かりましたね」と言うので、須磨寺の事務所での私の年恰好（作務衣を着ていた）を話すと直ぐに私と知れたそう、差し出されたお礼の封筒は固くお断りして、頂戴したお菓子の箱はその日の三時のおやつになつて、生徒さん達にこれまた喜ばれました。

後になつて考えると、果たして須磨から乞われるまま阪神大石まで走つたのが、正解だったのか否か、もつと良策が有つたのではないかなどと迷うところですが、自分なりに「終わり良ければ全てよし」の名言の中にさりげなく隠れん坊をしています、あの日作務衣を着て、まるで素性分らないままどこかの善意の人で終わつていれば、カツフよかつたのになんて思っています。「名乗るほどのものじゃない」とか呟いて……。

この世の縁は例え一度きりの出会いであつても、こうして心に残り続けることで人生の一角をいつまでも照らしてくれます。さりげない贈り物のように、時雨のあとの明るい時間が、優しい顔で明日に微笑みかけています。

須磨寺大仏師

山高龍雲

令和6年 年間行事 予定表

令和5年 年忌数え年早見表

1月

■ 1日(元旦)14時

開運修正会(大般若転読)

須磨寺本堂

■ 3ヶ日

10・12・14時

正月特別護摩祈禱

本坊護摩堂

■ 8日

11時半

薬師寺鬼追い式

頼政薬師寺

■ 17日

5時30分

大震災物故者慰霊法要

須磨寺本堂

10時

大震災物故者慰霊法要

本坊客殿

■ 28日～2月3日

5時15分

寒行(星祭護摩祈禱)

本坊護摩堂

2月

■ 3日

10・14時

節分星祭護摩祈禱

本坊護摩堂

15時

節分星祭祈禱

蓮生院

13時から16時

節分星祭祈禱

櫻壽院

■ 12日

15時

須磨寺先師忌土砂加持法要

本坊客殿

3月

■ 2日

14時

敦盛祭

須磨浦公園

敦盛塚

■ 11日

14時30分

東日本大震災

自然災害物故者慰霊法要

■ 16日

14時

平敦盛・源平戦士追悼法要

須磨寺本堂

■ 17日～23日

彼岸会(特別護摩祈禱)

4月

■ 6日

14時

十三まいり

■ 6日～8日

花まつり

灌仏会

甘茶お接待

■ 17日

9・12・15時

青葉殿

納骨供養祭

■ 29日

須磨大茶会

5月

■ 12日

終日

春季大祭

本尊慶讃法要

須磨寺本堂

6月

■ 15日

10時

弘法大師降誕会

本坊大師堂

7月

■ 30日

子供寺子屋修行

8月

■ 9日

18時

四万六千日法要(みあかり観音)

■ 12日～15日

盂蘭盆会

■ 15日

10時

盆大施餓鬼法要(本坊)

本坊客殿

■ 17日

9・12・15時

青葉殿盂蘭盆会法要

青葉殿

■ 19日

14時

盆大施餓鬼法要(櫻壽院)

櫻壽院本堂

■ 20日

14時

盆大施餓鬼法要(蓮生院)

蓮生院本堂

9月

■ 19日～25日

彼岸会(特別護摩祈禱)

10月

■ 6日

シベリア戦没者慰霊祭

シベリア慰霊碑

11月

■ 23日(祝)11時

須磨の火祭り

柴燈護摩

本坊

12月

■ 31日

23時45分

千巻心経護摩法要

本坊護摩堂

除夜の鐘

鐘樓堂

(21時30分

除夜の鐘

整理券配布)

■ 毎月18日

10時

写経会

本坊客殿

■ 毎月20・21日

お大師さん(縁日)

■ 毎月3・8・13・18・20・21・23・28日

10時

護摩祈禱

辰	卯	寅	丑	子	亥	戌	酉	申	未	午	巳
令和6年	令和5年	令和4年	令和3年	令和2年	令和元年	平成30年	平成29年	平成28年	平成27年	平成26年	平成25年
1 ● 羅喉星	2 ● 土曜星	3 ● 水曜星	4 ● 金曜星	5 ○ 日曜星	6 ● 火曜星	7 ● 計都星	8 ○ 月曜星	9 ○ 木曜星	10 ● 羅喉星	11 ● 土曜星	12 ● 水曜星
13 ○ 金曜星	14 ○ 日曜星	15 ● 火曜星	16 ● 計都星	17 ○ 月曜星	18 ○ 木曜星	19 ● 羅喉星	20 ● 土曜星	21 ○ 水曜星	22 ○ 金曜星	23 ○ 日曜星	24 ● 火曜星
25 ● 計都星	26 ○ 月曜星	27 ○ 木曜星	28 ● 羅喉星	29 ○ 土曜星	30 ○ 水曜星	31 ○ 金曜星	32 ○ 日曜星	33 ● 火曜星	34 ● 計都星	35 ○ 月曜星	36 ○ 木曜星
37 ● 羅喉星	38 ○ 土曜星	39 ○ 水曜星	40 ○ 金曜星	41 ○ 日曜星	42 ● 火曜星	43 ● 計都星	44 ○ 月曜星	45 ○ 木曜星	46 ● 羅喉星	47 ○ 土曜星	48 ○ 水曜星
49 ○ 金曜星	50 ○ 日曜星	51 ● 火曜星	52 ● 計都星	53 ○ 月曜星	54 ○ 木曜星	55 ● 羅喉星	56 ○ 土曜星	57 ○ 水曜星	58 ○ 金曜星	59 ○ 日曜星	60 ● 火曜星
61 ● 計都星	62 ○ 月曜星	63 ○ 木曜星	64 ● 羅喉星	65 ○ 土曜星	66 ○ 水曜星	67 ○ 金曜星	68 ○ 日曜星	69 ● 火曜星	70 ● 計都星	71 ○ 月曜星	72 ○ 木曜星
73 ● 羅喉星	74 ○ 土曜星	75 ○ 水曜星	76 ○ 金曜星	77 ○ 日曜星	78 ○ 火曜星	79 ○ 計都星	80 ○ 月曜星	81 ○ 木曜星	82 ○ 羅喉星	83 ○ 土曜星	84 ○ 水曜星
85 ○ 金曜星	86 ○ 日曜星	87 ○ 火曜星	88 ○ 計都星	89 ○ 月曜星	90 ○ 木曜星	91 ○ 羅喉星	92 ○ 土曜星	93 ○ 水曜星	94 ○ 金曜星	95 ○ 日曜星	96 ○ 火曜星
97 ○ 計都星	98 ○ 月曜星	99 ○ 木曜星	100 ○ 羅喉星	【大厄】 男性：41歳・42歳・43歳 女性：32歳・33歳・34歳							

令和5年の当たり星の吉凶表

○	○	●	●	○	●	●	●	●	●
大 木曜星	大 月曜星	大 計都星	大 火曜星	大 日曜星	半 金曜星	末 水曜星	半 土曜星	大 羅喉星	九曜星
この星にあたる人は、前年に引続いて、良い年となります。元気に努力して下さい。ただし、安んずるや油断をせず、悪事を為すことは、来る年に、大きな災いや苦勞を招くこととなります。十分に注意して下さい。	この星にあたる人は、前年に引続いて、良い年となります。元気に努力して下さい。ただし、安んずるや油断をせず、悪事を為すことは、来る年に、大きな災いや苦勞を招くこととなります。十分に注意して下さい。	この星にあたる人は、前年に引続いて、良い年となります。元気に努力して下さい。ただし、安んずるや油断をせず、悪事を為すことは、来る年に、大きな災いや苦勞を招くこととなります。十分に注意して下さい。	この星にあたる人は、前年に引続いて、良い年となります。元気に努力して下さい。ただし、安んずるや油断をせず、悪事を為すことは、来る年に、大きな災いや苦勞を招くこととなります。十分に注意して下さい。	この星にあたる人は、前年に引続いて、良い年となります。元気に努力して下さい。ただし、安んずるや油断をせず、悪事を為すことは、来る年に、大きな災いや苦勞を招くこととなります。十分に注意して下さい。	この星にあたる人は、前年に引続いて、良い年となります。元気に努力して下さい。ただし、安んずるや油断をせず、悪事を為すことは、来る年に、大きな災いや苦勞を招くこととなります。十分に注意して下さい。	この星にあたる人は、前年に引続いて、良い年となります。元気に努力して下さい。ただし、安んずるや油断をせず、悪事を為すことは、来る年に、大きな災いや苦勞を招くこととなります。十分に注意して下さい。	この星にあたる人は、前年に引続いて、良い年となります。元気に努力して下さい。ただし、安んずるや油断をせず、悪事を為すことは、来る年に、大きな災いや苦勞を招くこととなります。十分に注意して下さい。	この星にあたる人は、前年に引続いて、良い年となります。元気に努力して下さい。ただし、安んずるや油断をせず、悪事を為すことは、来る年に、大きな災いや苦勞を招くこととなります。十分に注意して下さい。	この星にあたる人は、前年に引続いて、良い年となります。元気に努力して下さい。ただし、安んずるや油断をせず、悪事を為すことは、来る年に、大きな災いや苦勞を招くこととなります。十分に注意して下さい。

令和6年 年忌一覽

一周忌	令和五年亡	二十五回忌	平成十二年亡
三回忌	令和四年亡	二十七回忌	平成十年亡
七回忌	平成三十年亡	三十三回忌	平成四年亡
十三回忌	平成二十四年亡	三十七回忌	昭和六十二年亡
十七回忌	平成二十年亡	五十回忌	昭和五十年亡
二十三回忌	平成十四年亡	百回忌	大正十四年亡